

## 1 年部の研修（後期）

### ~~~~~ お手伝い大作戦 ~~~~~

#### (1) わたしのかぞく

まず自分の家族について発表したり、友達の家族についての発表を聞いたりする中で、自分たちも家族の一員であることを改めて感じる事ができた。次にいろいろな表現方法（絵・写真・ペープサート）をここで初めて教え、それらを使って家族の中の一人を紹介した。紹介する内容も各自考え、家の人にインタビューしたりして意欲を持って発表することができた。

#### (2) おかあさんの1日

家の中で聞こえるいろいろな音を子供たちに聞かせ、その音は誰が何をしている時の音なのか当てっこをした。すると子供たちは、お母さんがやっている仕事の音がとても多いことに気づいた。そこで土・日のうちの1日について、誰が、何時頃、どんな仕事をしているか各自調べてみた。すると「本当にお母さんのする仕事が多い」「お母さんはたくさん働いていて大変だな」「お母さんは一生懸命おいしいものを作ってくれているよ。うれしいよ。」などの感想を聞くことができた。

#### (3) ほうきではくよ

ちょうど落ち葉が多い時期でもあり、また正しいほうきの使い方ができていない子が多かったので、学年全体でほうきの使い方を指導した。その後、運動場の落ち葉を各自がほうきで掃き、ビニール袋に入れることを試みた。袋いっぱいになるまでとてもよく落ち葉を掃き、集めることができた。

#### (4) お手つだい大きくせん

お母さんは家でいろいろな仕事をやっていて大変だということで、自分にもできるお手伝い（食事の支度・片づけ、洗濯物、お風呂洗い、掃除など）を各自が選び、実践した。「今までやってたから簡単だったよ」「難しかったけどおもしろかったよ」「手を切らないように気をつけたよ」などお手伝いに対して意欲や工夫がみられた。家の中の「ありがとう」の言葉がとても励みになったようで、その後冬休みも継続してやることができた。

#### (5) お手つだいのめい人になろう

次に、普段やっているお手伝いのやり方や工夫していることを「お風呂洗い名人」などとして発表した。中には家の人に上手にできるコツをしっかりと教えてもらってきて発表した子もいた。

#### (6) めい人のはっぴょうかい（研究授業を発表済み）

さらに次は、クラスの半分の子が、自分のお手伝いを実際にやりながら説明し、残りの子は聞くという発表会を試みた。実際にお手伝いをやりながら説明することは1年生にとっては難しいことで、発表の内容や実演の仕方など工夫しながら発表することができた。実演したので、聞いている子も興味深く見る事ができた。次にお手伝いの名人にやり方を教えてもらいながら、聞いている子もいろいろなお手伝いを体験した。ここでは他のお手伝い名人の声があまり入ってこないように、大きい段ボールを衝立にして活動することにした。

#### (7) あたらしいお手つだいにちょうせん

名人に教えてもらったお手伝いの中でこれから家でやってみたいものを各自選んだ。今後時々、個人的に声かけをして意欲が継続できるようにしていきたい。

# みんなで作ろう

## あきをさがそう

10月に千本浜公園に、秋を探しに出かけた。千本浜公園の松林の中で、まつぼっくりを探した。このまつぼっくりは、ききょう祭りに、まつぼっくりツリーを作ってお店で売るためである。松林のあちらこちらに落ちているまつぼっくりを拾い持っていった袋の中につめた。まつぼっくりは思ったより、たくさん落ちていたのでたくさん集めることができた。まつぼっくりのほかにも、木の実なども集めることができ、千本浜公園でたくさんの秋を見つけることができた。

## 石をさがそう

千本浜公園でたくさんのまつぼっくりを探した後、千本浜に出て、文鎮づくりのための石探しをした。丸くて形のよい石、文鎮として安定感のある石、絵を描きやすい石、大きすぎず小さすぎない石、模様の入ってきれいな石などたくさんの石を集めることができたが、持ち帰るのに重いので、一人限定4～5個とした。

## ぶんちんやリースをつくろう

学校に持ち帰った石やまつぼっくりをきれいに洗って、乾かし、その上にカラースプレーをかけた。スプレーが乾いてから、石の上に子ども達は思い思いの絵を描いた。色とりどりのすてきな文鎮が出来上がった。また、まつぼっくりには、スパンコール・ビーズ・綿などで飾り付けをした。細かい作業で子ども達は悪戦苦闘したが、思ったよりできばえがよく、売るのが惜しいと嘆く子も出てきた。

## おみせをつくろう

1年生にとって初めてのききょう祭り。子ども達にどんなききょう祭りをしたいかと投げかけると、「ゲームやさんをやりたい」「お店やさんをやりたい」「お化け屋敷をやりたい」「踊りや劇をやりたい」等様々な意見が出た。1年生の力で無理なくできそうなものを決めさせたいと思い話し合いをした。その結果「ゲーム屋」「お店屋」「劇場」に決まった。学級独自だと子ども達の願いを十分かなえてやることのできないので、学級の枠をはずしそれぞれの子どもが自分のやりたいものに挑戦させることにし、それぞれの店やスタジオに、各担任がついて指導に当たることにした。「ゲーム屋」をやりたいという子どもが最も多かったので「ゲーム屋」は2教室を使ってやることに決めた。

生活科の時間になると、子ども達はそれぞれの教室に行って活動をした。「どのような店にするか」「店の名前は何にするか」「どんな材料が必要か」「どんな練習が必要か」など入念な話し合いを繰り返しながら仕事を進めていった。

「ゲーム屋」では、魚釣りゲーム・ストラックアウト・紙相撲・等色々なゲームを考え、段ボールを持ち込んで、ゲームづくりに興じたり、表品や景品づくりに知恵を出し合ったりした。

「お店屋」では石の文鎮・まつぼっくりリース・マカロニリース・木の実アクセサリー等の制作に多くの時間を費やした。

「スタジオ」では、国語の教材「うさぎが空をなめました」を劇化をし、劇の練習をたり、ハンドベルの演奏をしたり、踊りを踊ったり、多くの時間をかけた。どの子ども達も自分のやりたいものに挑戦したので、意欲的な活動が見られた。また、担任にとっては学級の枠をはずして取り組んだので、自分の学級以外の子ども達を知ることができ大変良かった。

ききょう祭りの当日はどの子ども自分の役割は果たしながら、活動を楽しんでいた。

## あきと なかよし

### (1) 落ち葉拾い、落ち葉のかんむり作り

学校の西側歩道の街路樹が美しく色づいた頃、落ち葉拾いに出かけた。「こんな大きなのがあった。」とプラタナスの葉を拾ってきたり、「一番きれいなものを見つけた。」とまっかに色づいた小さな葉を拾ってきたり、一人一人が目を凝らして収集できた。木の葉が紅葉するという事は知っていても、実際に拾ってみて初めて形や色のおもしろさ、種類の違いに気づいたようである。

その後、拾ってきた落ち葉を画用紙に貼り付けてかんむりを作ったが、普段は集中力に欠けてしまう子ども意欲的に取り組み、出来上がった作品をかぶって、うれしそうに帰宅する姿が見られた。

### (2) 木の実拾い

駐車場から体育館裏側を中心に校庭めぐりをして、木の実拾いをした。実施してみると、やはり、木の葉拾いの時と同様、いろいろな種類のどんぐりがあることが分かった。中でも、ぼうし(おわん)がついたまま、落ちているものが子どもたちの目をひいた。このぼうしは、どんな役目をしているのかは、後で絵本で紹介することとなった。

また、しいの実を食べさせてみると、「おいしい」「まずい」「もっと食べたい」等など・・・初めて体験する子どもも多く、大騒ぎだった。

拾ってきたどんぐりは、コマまわしや、どんぐりごまバトル(ベイブレードをイメージしたもの)に発展し、ごく自然に、遊びを通して子どもたち同士のかかわりを作る方向へ広がっていった。さらに、ききょうまつりのゲームやさんでも、「どんぐりゴマまわしをやりたい。」と意欲的に出店できた。

### (3) あさがおのつるリース作り

たね採りが終わった後、枯れたつるを円形に束ね、飾りをつけてリースに仕上げた。飾りつけは、おかあさんたちとの共同作業として参観日に実施し、楽しく取り組むことができた。

## お正月あそび・むかしのあそび

お手玉、おはじき、ビー玉、あやとり、かるた、ふくわらい、百人一首などの室内遊びと、たこあげ、竹馬、はねつき、けん玉、竹とんぼ、等の外遊びとに分け、体験させた。

道具を持っている子が遊びのリーダーとなり、他の子はその子に教わるという形で、ローテーションしながら、いろいろな遊びに挑戦した。竹馬、はねつき等技能が伴わないと楽しさにまでは至らないものもあったが、ふくわらい、坊主めくりなどは、それまで体験したことのなかった子どもも楽しく遊べた。学習後は、休み時間にあやとりがはやったり、男の子も「はないちもんめ」に参加したりする様子が見え、友だち同士で楽しさを共有することができた。

資料

## お手伝い大作戦



せんたくたたみ  
名人

## そうじ名人





## お正月遊び・昔の遊び

### お正月遊び・昔の遊び



じぶんで作った  
羽子板と羽  
で遊んだよ

おはじきで  
対抗したよ

